

総合教育センターだより

133号 令和3年9月発行 山梨県総合教育センター



～夏期研修会をふいかえって～

新型コロナウイルス感染症拡大の第5波に突入する中、7月26日（月）から夏期研修会が始まりました。当初は、8月20日（金）まで計画通りに実施する予定でしたが、山梨県においても不要不急の外出や移動の自粛などを求める臨時特別協力要請が発出される事態に至りました。そのため、本センターにおいても、8月4日（水）以降は参集による研修会を中止にせざるを得ない状況となり、以下に掲げるような計画の変更を迫られました。

まず一つは、代替実施です。これは、①オンライン、②オンデマンド、③資料提供および課題提出という3つの方法で対処することにしました。結果的に、夏期研修会期間中の代替研修は①20研修、②6研修、③4研修でした。コロナ禍にあっても、なんとか先生方の学びを止めないために行いましたが、現場の先生方にはご負担をおかけした場面も多々あったことと思います。深く感謝申し上げます。そして、一方では、様々な理由により中止とせざるを得ない研修会もありました。参集しなければ実施不可能な研修形態のものや、講師の先生のご都合などにより、残念ながら25研修が中止となり、参考文献の紹介等の対応をさせていただきました。参加を予定されていた先生方には、心よりお詫び申し上げます。

代替実施も含めて実施できた研修会は95研修、出席者数は延べ2571名となりました。今後も、充実した研修会を企画して参りますので、参加のほどよろしくお願いいたします。

「令和3年度 初任者研修会の様子」

今年度は254名の初任者が校内外で研修に励んでいます。



特別支援学校 自立活動グループワーク



中学校 特別の教科道徳



高等学校 学習指導要領について

「令和3年度 五年経験者研修会の様子」

6月22日（火）の五年研には162名が参加し、保護者対応について学びました。

校種ごとに分科会に分かれて実践事例をもとに、どのような対応をするかグループで討議しました。



数学科ICT活用研修会

昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策への十分な注意を払いつつ、8月2日情報教育棟第1パソコン室を会場に、青洲高校の佐藤朗先生、山梨高校の吉野諒先生を講師としてお招きし、中学・高校数学科の学習指導・授業づくりに活用出来る教材作成アプリ「GeoGebra（ジオジェブラ）」に関する講義演習に、中学・高校の先生方とともに取り組みました。ICT活用による教材作成（代数解析に於ける数式のイメージ化、幾何図形に於ける動的変形、立体の可視化等）に関する丁寧な解説、書画カメラを用いた具体的な使用アイデア、数学ソフト機能の利便性に実際に触れながら各々が作成した教材資料について、その意図と利用法等を発表し互いに共有しました。その中で中高に於ける教科指導連携も図られ、受講者からは「機能の多様性に驚いた」「理解を深めるためのツールとして活用出来る」「生徒自身がICTを活用し数学を表現できる喜びを感じられるよう、積極的に授業に導入したい」等の声が寄せられ、本研修会の目的を果たすことが出来たと考えています。



小中特 音楽科実技研修会！ リトミックの指導と実践

東京藝術大学講師の杉山智恵子先生をお招きし、感染症対策を講じてリトミックの研修を実施しました。先生の指示に合わせて身体でリズムを感じたり表現したり、ビーチボールを使って拍を感じたりと、実感を伴った活動が次々に展開され、受講者は笑顔で楽しそうに学んでいました。また後半では、授業で活用できる打楽器を用いた実践を教えてくださいました。



受講者からは、「ビーチボールを使ったリズム遊びは、初体験で新鮮でした。このような形で音楽を楽しむことができるんだと大変勉強になった。とても楽しく学ぶことができました」「講師の先生の声かけも、実際に授業等で扱った場合に活用することができる声かけであり、活動のみならず、声かけや流し方などを活用してみたいと感じた」といった感想が寄せられました。

小中 電子タグを使ったプログラミング教育実践研修会！

本研修会は、「小学校におけるプログラミング教育の授業実践事例から有効な活用方法を学ぶとともに、より実践的な指導力の向上を図る」ことを目的に、SONY社の「MESHを使ったプログラミング」の演習と「MESHを利用した授業展開について」の講義が行われました。令和元年度末まで北杜市立泉小学校で教鞭をとられ、現在、常葉大学教育学部専任講師、文部科学省ICT教育活用アドバイザーをお務めの三井一希先生、ソニーマーケティング株式会社から2名、計3名の講師をお招きしました。機材も全て準備いただき、素晴らしい環境の中での研修会となりました。



前半は、人感ブロックや明るさブロックを使い、光や音を制御するプログラムをiPad上で作るなどの演習が行われました。

後半は、MESHの授業への活用について演習を交えながら講義が行われ、教材としての可能性について知り、今後の先生方の実践に向け大きなヒントになったと思います。

学級・集団づくり研修会 ～理論と実践から学ぶ～

本研修会は、児童生徒の協力的な関係性や主体性をもった学級づくり・集団づくりについて理解を深め、指導力の向上を図る目的で実施されました。午前は立正大学特任教授の鹿嶋真弓先生を講師にお招きしました。鹿嶋先生は現任教員時代にNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で取り上げられ、荒れた学校を大きく変えた伝説の教師として大きな話題になりました。「正解主義」「みんな一緒」から「修正主義」「それぞれ一人一人」へ、教育のパラダイムシフトが起きていることを踏まえながら、行動の変容と人間的な自己成長を促す構成的グループエンカウンターを実際の体験を通して学びました。午後は白根東小学校の藤原直幸先生、下吉田中学校教頭の薦木宏之先生、吉田高等学校の小林美樹先生に実践発表をしていただきました。受講者からは、「集団づくりの持つ意味合いと意図を整理することができた」「魅力的な実践や具体的な活動を知ることができたので、2学期に活かしたい」「体験しながら学べて有意義だった」など、肯定的な意見を多数いただきました。今後も先生方の充実した学びに少しでも貢献できるような研修会を企画していきたいと思っております。



ICT 活用指導力推進研修会Ⅲ

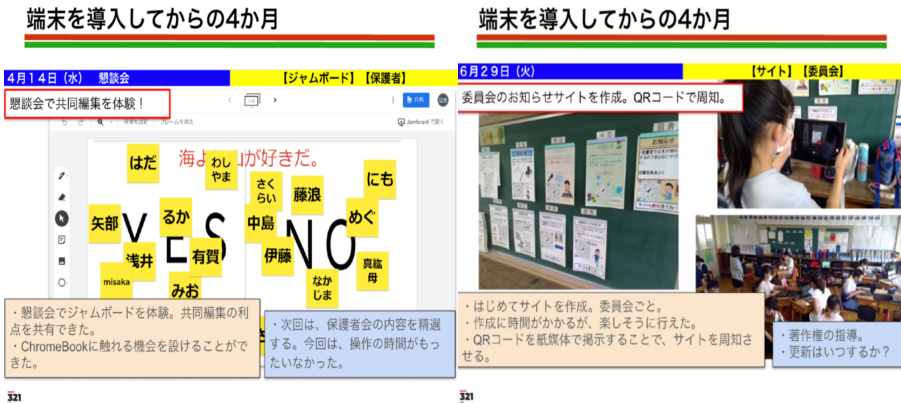
本研修会は8月17日にオンラインで実施され、常葉大学教育学部専任講師の三井一希先生に「一人一台端末の効果的な活用～個別最適な学びと協働的な学びの実現へ向けて～」をテーマにご講義いただき、県内の全校種から103名の参加がありました。

研修は、開始から(Google)Jamboardを使って全参加者が情報共有や意見交換をする機会が設けられる等、ICT活用を体験しながら講義を聴く形式で行われました。

講義の目標は、参加者が「児童生徒によるICT活用が求められている意義と期待される効果を説明できる」と、「個別最適な学びと協働的な学びのイメージを持つことができる」の2つでした。

最新データに基づいた解説は分かりやすく、実践事例の紹介は参考になると好評でした。また、子供たちの認知が無意識のうちにメディアに影響されていることへの危惧と、それゆえに「メディアとの付き合い方としての情報活用能力」の育成が求められていることをお話いただきました。

参加者から「メディアリテラシーは大切」「タイピング技術の向上は必須」「個別最適な学びの実現に向け、児童生徒に様々な学び方を教え、そこから選択できるようにすることの重要性が理解できた」などの感想が寄せられました。



小 理科授業づくり研修会 I

本研修会はステージⅠとして小学校経験3年目の先生全員を対象にしており、今年度の受講者は101名でした。新学習指導要領が求める資質能力の育成について、そして特に理科の授業の進め方や観察や実験に重きを置いた研修としました。理科の4つの領域として生物領域、粒子領域、エネルギー領域、地球領域の授業の実践例や観察や実験の方法について、それぞれ詳しく研修を行いました。新型コロナウイルス対策として、一部屋に入る人数を12～13名とし、受講者一人一人に観察、実験器具を用意し研修を行いました。少人数で研修することで、講師と受講者のやり取りが増えたことや、YELの動画コンテンツを事前に視聴することにより、研修がより深まったとのご意見を数多く頂きました。この研修の受講者に独自に行ったアンケートでは、理科の授業を1回も持ったことのない先生が21%、そして64%の先生方が理科が苦手であるという結果がでました。近年若年層の教師が増加する中、若い先生方が理科の授業に不安を抱えていることがわかりました。こうした不安を解消するためにも、理科の観察や実験に関する研修の重要性を再認識いたしました。



夏期研修会の様子



104 新校長研修会



203 小特国語科授業づくり研修会



234 野外研修



603 教育相談コーディネーター研修会



901 理科実験工作研修会(科学館)



902 身近な自然の指導法研修会(森林総合研究所)

特別研修会 I を終えて

東京学芸大学名誉教授であり、日本の算数・数学教育の第一人者である藤井齊亮先生による特別講演を、「新学習指導要領における問題解決型授業の価値」と題し、開催いたしました。総勢約260名の先生方が参加しました。

先生の説得力のあるお話に惹きこまれ、「どの教科においても授業研究が重要であることを改めて学んだ」「担当教科に置き換え、考えさせられた」との声が届きました。また、「明日からの授業づくりに生かしたい」「日本の授業研究の素晴らしさを絶やしてはいけない」と気持ちを奮い立たせた先生方も多かったようです。



私たちは、問題解決型授業の価値を知ったうえで、教師も授業を楽しむことを忘れずに実践していきたいものです。

参加形態については、参集参加とオンライン参加(含オンデマンド)を選択可能にして実施したため、働き方改革の点においても効果が大きいという感想の一方で、直接、お話を伺いたいというニーズにも応えることができ、好評でした。



特別研修会 II (兼 総合教育センター研究大会)

日時：令和4年2月22日(火) 13:20~14:30

講師：山梨大学 副学長 中村和彦先生

演題：子供たちに寄り添う学校教育の在り方



コロナ禍にある子供たちの様々なストレスや不安に、教職員はどのように向き合い、寄り添うことが大切か。また、子供たちが自己の生き方に希望を持ち、自己肯定感を育むために、学校は、教職員はどのように教育活動を進めていくことが大切になるか。新しい日常を踏まえたポストコロナの学校の在り方について示唆をいただきます。

センター研究 拡大校内研究会の開催について

本センターでは「資質能力の育成に向けた学校教育への総合的な支援—生きる力を育む実践的指導の在り方—」を研究テーマに、研究協力校の協力を得て、共同研究を進めております。今年度は、下記の研究協力校において、拡大校内研究会を開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【南アルプス市立白根御勅使中学校	「授業・学校づくり」	(2年次) (研究協力2年目) 10月26日(火)】
【山梨県立甲府東高等学校	「授業・学校づくり」	(2年次) (研究協力2年目) 10月26日(火)】
【富士川町立鰯沢小学校	「授業・学校づくり」	(2年次) (研究協力2年目) 10月27日(水)】
【笛吹市立石和南小学校	「授業・学校づくり」	(1年次) (研究協力1年目) 11月1日(月)】
【笛吹市立一宮南小学校	「授業・学校づくり」	(2年次) (研究協力2年目) 11月22日(月)】
【上野原市立島田小学校	「情報教育に関する研究」	(1年次) (研究協力1年目) 11月24日(水)】

※詳細については、一次案内及び二次案内をご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、予定を変更する場合がございます。

一般留学生の声

一般留学生として研究を進め、5か月が過ぎました。私は「中学校における考え、議論する道徳科の授業に関する研究」特に発問の工夫に着目した研究に取り組んでいます。ここでの研究の醍醐味は、校種の枠を超えた総合教育センターの先生方をはじめ、様々な領域で活躍される経験豊かな先生方からご助言を頂くことができ、自分の研究を深められるところだと思います。また、教育に関わる研修のシステムも充実しており、今日的な教育課題や専門領域に関わる研修から、教師としてだけでなく、人間としての力量や感性が広がることを実感しています。じっくりと腰を据えて研究に取り組めることに感謝し、現場に少しでも還元できるようこれからも頑張りたいと思います。

双葉中学校 橋田小百合



YAMANASHI PREFECTURAL
EDUCATION CENTER

編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田1456
電話 055-262-5571
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 安達 徹
発行日 令和3年9月30日